

Canon

EOS 3000 QD



使用説明書



日本語版





キヤノン製品のお買い上げありがとうございます


EOS 3000QDはたいへんコンパクトなAF一眼レフカメラですが、簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

■本文中のマークについて

 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。

 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

 カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

本文中に(→■)と表示されているのは、その箇所と関連のあるページを示しています。あわせてお読みください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため6ページの「安全上のご注意」および10ページの「取り扱い上のご注意」をお読みください。

この使用説明書では、EF35-80mm F4-5.6レンズ付きで説明しています。

この使用説明書は必要なきいつでも取り出せる場所においてご活用ください。


■ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。
また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。






目次

安全上のご注意.....	6
取り扱い上のご注意.....	10
すぐ撮影したい方のために（操作早わかり）.....	12
各部の名称.....	14

1 撮影前の準備..... 19

電池のセットと電池容量の確認.....	20
レンズを取り付ける・取り外す.....	22
シャッターボタンとオートフォーカス.....	23
フィルムを入れる・取り出す.....	24
 フィルム途中巻き戻し.....	25
カメラの構え方.....	26

2 カメラまかせの全自動撮影..... 27

<input type="checkbox"/> 全自動で撮る.....	28
AF補助光について.....	29
 ポートレートで撮る.....	30
 風景で撮る.....	31
 クローズアップで撮る.....	32
 スポーツで撮る.....	33
 セルフタイマーを利用して撮る.....	34
アイピースカバーを使う.....	35
日付／時刻を入れて撮る.....	36
日付／時刻を変更する.....	37
クオーツデート用電池の交換.....	37
撮影機能の組み合わせ一覧.....	38

3 撮影目的に合わせた自在な応用撮影..... 39

P プログラムAEで撮る.....	40
P と □ の違い.....	41
プログラムシフトについて.....	41
6秒タイマー.....	41
Tv シャッター速度を決めて撮る.....	42
Av 絞りを決めて撮る.....	44
夜景を背景に人を撮る.....	45
M 自由に露出を決めて撮る.....	46
A-DEP 近くから遠くまでピントが合った写真を撮る.....	48
* 部分測光・AEロックで撮る.....	49

露出を補正して撮る	50
AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる	51
AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）	52
▶▶▶ ピントが合ったときの電子音を消す	53
長時間露光（バルブ）撮影	54
📷 多重露出撮影	55
フィルム感度を変更する	56

4 内蔵ストロボを使った撮影.....57

内蔵ストロボ撮影	58
👁️ 赤目緩和機能を使う	59

資料

露出表示が点滅したときは	60
ストロボ同調シャッター速度と絞り数値	61
AFモードとフィルム巻き上げの関係	61
写真の基本用語解説	62
「故障かな？」とお考えになる前に	64
主なアクセサリ（別売）	65
主な仕様	67
索引	70

1

2

3

4

資料

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止











分解禁止




接触禁止

- ⊘ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⊘ の中に具体的な禁止内容が描かれています。




 **警告****電池について**

-  このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を火の中に入れてたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れてたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  リチウム電池、アルカリ電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。
-  万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキャノンサービスセンターにご連絡ください。
-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
-  電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。





警告

-  可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。



ストロボについて

-  ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
-  ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
-  車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。







その他取り扱いについて

-  自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
-  落下等により、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  レンズまたはレンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
-  湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。

 **警告**

-  カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
-  自動車などの運転中に運転者は、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

 **注意**

-  カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
-  カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
-  レンズまたはレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
-  カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
-  カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶついたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
-  万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- (1) このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- (2) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (3) レンズやフィルム室内にゴミがついているときは、市販のブローアブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (4) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。また保管期間中もときどきシャッターを切るようにして、作動することを確認してください。
- (5) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (6) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。表示がうすくなった場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください(有料)。なお液晶の特性上、低温下で表示反応がやや遅くなったり、

60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

リチウム電池について

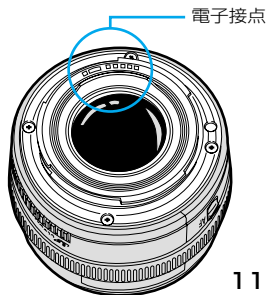
- (1) カメラはリチウム電池CR123A（またはDL123A）2本を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。
 - 電池を交換したとき
 - 長期間カメラを使用しなかったとき
 - シャッターが切れなくなったとき
 - 寒冷地で撮影するとき
 - その他、大切な写真を撮るとき
- (2) 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふきとってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- (3) この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

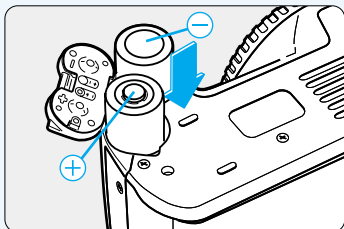
表示パネルに **bc** が点灯しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。ただし、電池の容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。新品の電池に交換してください。

レンズの電子接点について

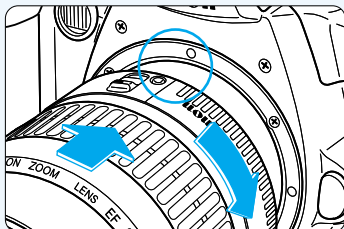
レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



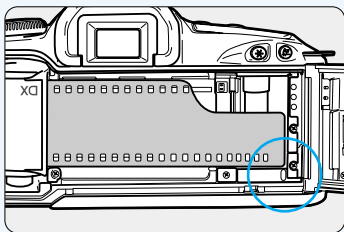
すぐ撮影したい方のために



- 1 電池を入れる**
電池室ふたの表示にしたがってリチウム電池CR123A (またはDL123A) を2本入れます。(→20)



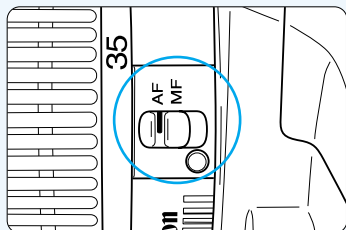
- 2 レンズを取り付ける**
レンズとカメラの赤いマークを合わせてさしこみ、カチッと音がするまでレンズを時計回りに回します。(→22)



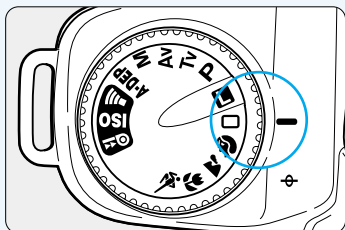
- 5 フィルムを入れる**
フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせて、パチンと音がするまで背ぶたを閉じます。(→24)
- フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。



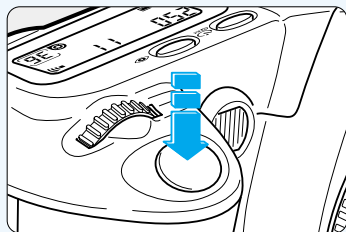
- 6 ピントを合わせる**
写したいもの(被写体)にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(→28)
- ⚡マークが点滅したら内蔵ストロボを上げてください。(→58)



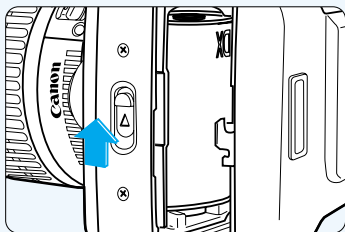
- 3** レンズのフォーカス
モードスイッチをAF
にする
(→22)



- 4** モードダイヤルを
〈□〉(全自動)にする
(→28)

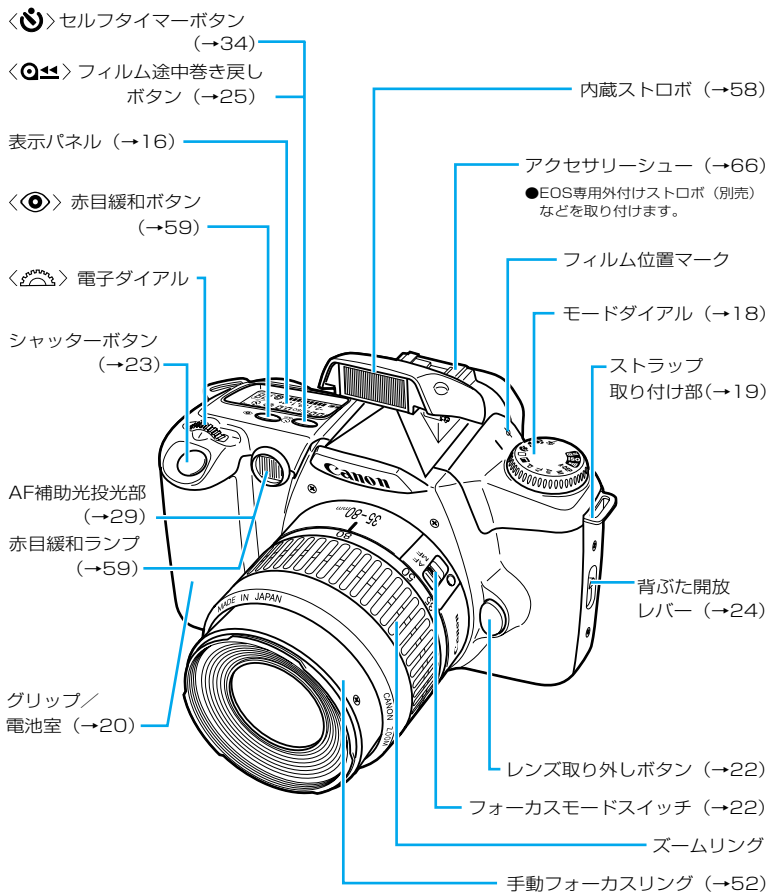


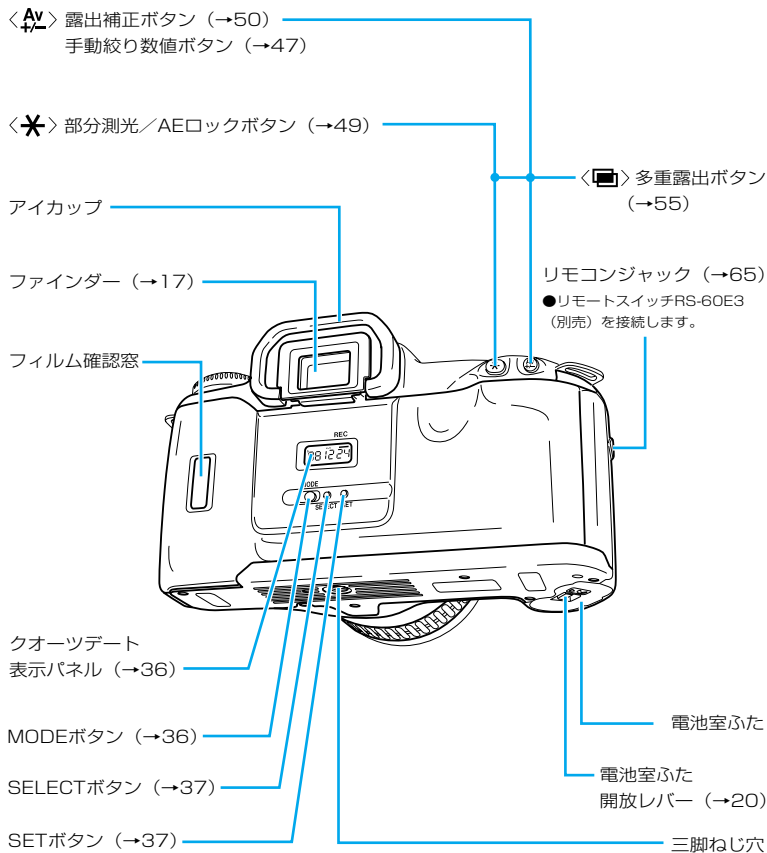
- 7** 撮影する
さらにシャッターボタンを
押して撮影します。(→23)



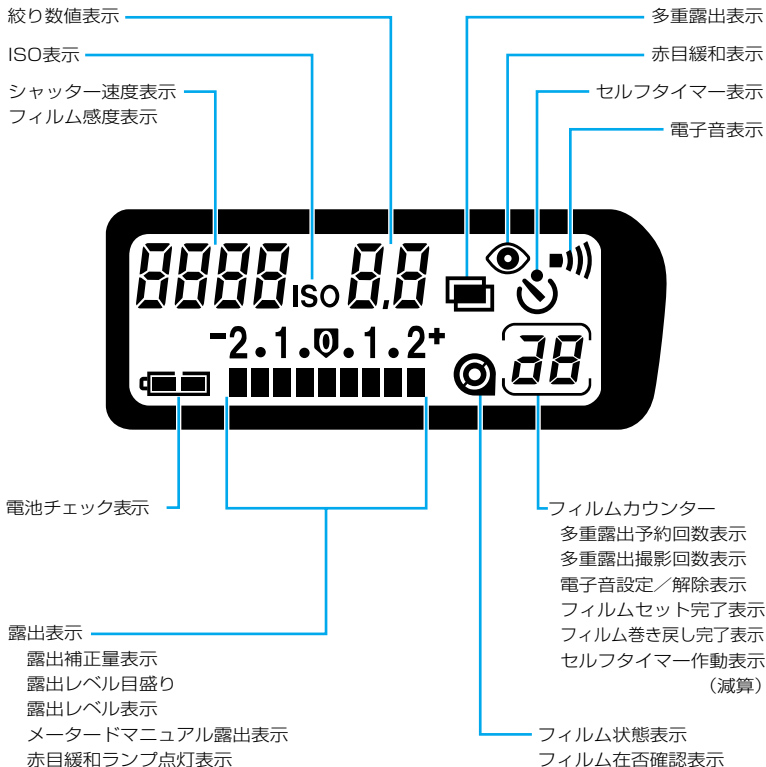
- 8** フィルムを取り出す
フィルムを撮り終わると
フィルムは自動的に巻き取ら
れます。背ぶたを開けてフ
ィルムを取り出します。
(→25)

各部の名称



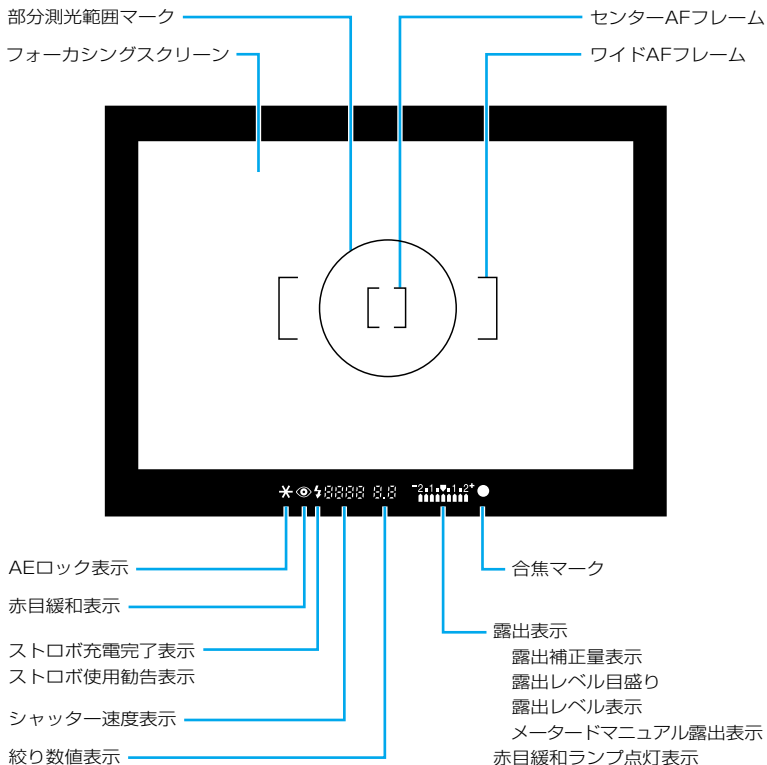


表示パネル



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分が表示されます。

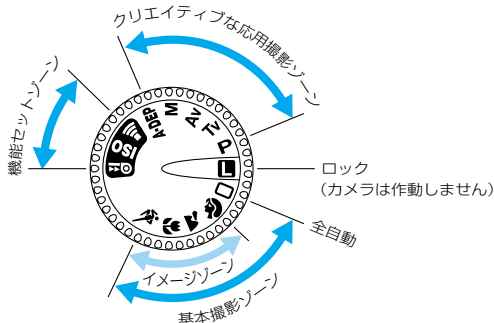
ファインダー内表示



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分が表示されます。

モードダイヤルについて

モードダイヤルは4つの機能ゾーンに分けられています。



基本撮影ゾーン

□ : 全自動 (→28)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

- : ポートレート (→30)
- : 風景 (→31)
- : クローズアップ (→32)
- : スポーツ (→33)

クリエイティブな応用撮影ゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

- P** : プログラムAE (→40)
- Tv** : シャッター優先AE (→42)
- Av** : 絞り優先AE (→44)
- M** : マニュアル露出 (→46)
- A-DEP** : オートDEP (→48)

機能セットゾーン

- : 電子音 (→53)
- ISO** : マニュアルISO感度 (→56)
- : フィルム途中巻き戻し (→25)

Ⓛ : ロック (LOCK)

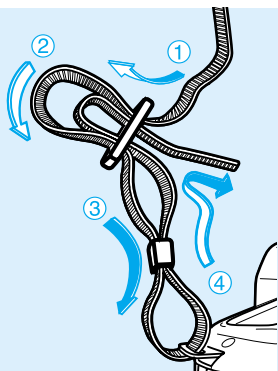


カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを **Ⓛ** (ロック) にしてください。カメラは作動しません。

撮影の前にはしておかなければならない準備や、シャッターボタンの動きについて説明しています。

1

撮影前の準備



ストラップ(吊りひも)の取り付け方

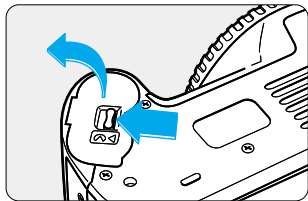
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。ストラップを引っばっても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーがついています。(→35)

電池のセットと電池容量の確認

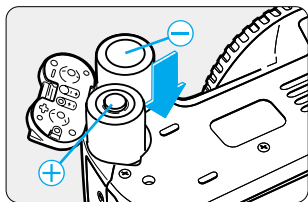
電池をセットする

電池はリチウム電池CR123A（またはDL123A）2本を使用します。



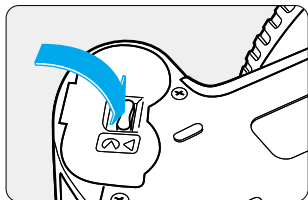
1 電池室ふたを開ける

- 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室ふたを開けます。



2 電池を入れる

- 「+」「-」をまちがえないよう電池室ふたの表示にしたがって電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使わないでください。

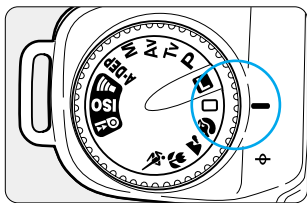


3 電池室ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで電池室ふたを押します。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



電池チェック表示

モードダイヤルをく「P」以外にする

● 電源が入り表示パネルに電池チェック表示が表示されます。

■ : 電池の容量は十分です。

■ : 電池の容量が少なくなっています。新しい電池を用意してください。

■ : もうすぐ電池切れになります。

bc : 新しい電池と交換してください。
(→11) このときシャッターは切れません。

撮影可能フィルム本数（24枚撮りフィルム・常温）

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温（+20℃）	60	25	12
低温（-10℃）	35	15	7

● テストは新品電池、EF35-80mm F4-5.6レンズを使って当社の試験条件で行なっています。

● 撮影時以外でもオートフォーカスを行ったり、フィルムを入れずに空撮すると電池が消耗し、撮影本数が少なくなります。



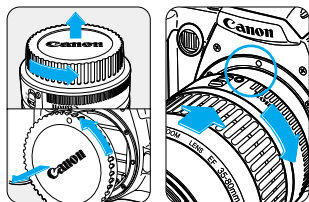
表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れなおしてください。(→20)



地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池を用意してください。

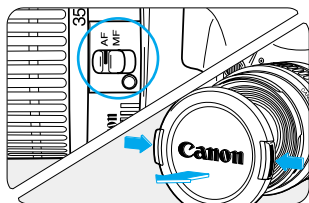
レンズを取り付ける・取り外す

レンズの取り付け方



1 レンズのダストキャップとカメラのボディキャップを外す

2 レンズとカメラの赤いマークを合わせてレンズをはめこみ、矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す



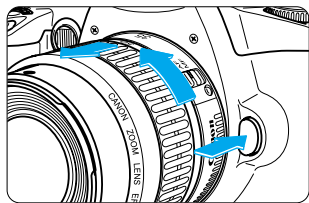
3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする

- MF (あるいはM) になっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス中は、レンズの回転する部分に触れないでください。

4 レンズキャップを外す

- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。

レンズの取り外し方



レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

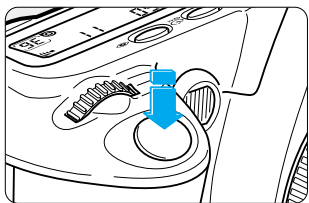
- レンズを止まるまで回してから、外してください。

シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

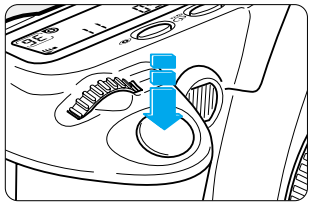
シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは次のような働きをします。



半押し

- 自動ピント合わせ（オートフォーカス／AF）が働き、写したいもの（被写体）にピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に緑色のランプ（合焦マーク）がつかます。
- 同時にシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（露出）が決まり、表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

- シャッターが切れて撮影され、フィルムを1コマ巻き取ります。



シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ぶれ」といい、全体がぼけたような写真になってしまいます。シャープな写真を撮るために次の点に注意してください。（→26）

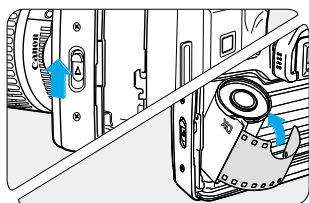
- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- シャッターボタンに指の腹をかけ、右手全体に握るような感じの力を入れて、静かに押します。

フィルムを入れる・取り出す

フィルムを入れる

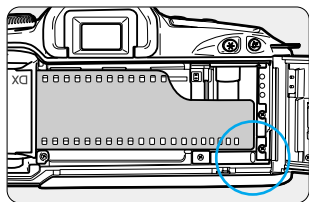
フィルムをセットすると一度フィルムを全部巻き取り、撮影のたびに1コマずつ巻き戻していきます。フィルムカウンターには常に残っているフィルムの枚数が表示されます。

1 モードダイヤルをく **□** > 以外にする



2 背ぶた開放レバーを上げて背ぶたを開く

3 フィルムを図のように斜めにしながら入れる



4 フィルムの先端をオレンジマークに合わせ、背ぶたを閉じる

- フィルムがたるまないよう、フィルム容器(パトローネ)を押さえてください。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネに少し巻き戻してください。
- フィルムの巻き取りが始まり、フィルムカウンターの数字が増えていきます。最後にシャッターが切れるような音が出て、表示パネルに **◎** と撮影できるフィルムの枚数が表示されます。
- フィルムの枚数が表示されない場合はフィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れなおしてください。



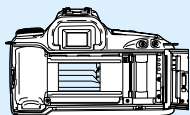
● フィルム感度はDXコードによって自動的にセットされます。

● DXコードがついていないフィルムは手動でフィルムの感度をセットします。

(→56)



- このカメラの特性上、赤外フィルムは使用できません。
- シャッター幕は非常に高い精度で作動します。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。



フィルムを取り出す

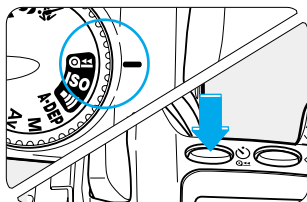
フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。



巻き戻しが終わると表示パネルが **<Q>** だけの表示になります。表示を確認して背ぶたを開けフィルムを取り出します。

Q フィルム途中巻き戻し

フィルムを最後まで撮り終える前に現像に出すときは、次のようにします。



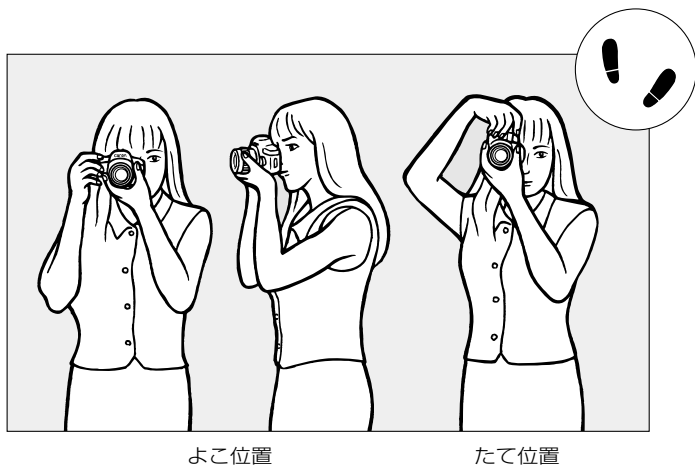
- 1 モードダイヤルを **<Q>** にする
- 2 **<Q>** ボタンを1秒以上押し続ける
● フィルムの巻き戻しが始まり、シャッターが切れるような音と同時に巻き戻しが終了します。
- 3 フィルムを取り出す



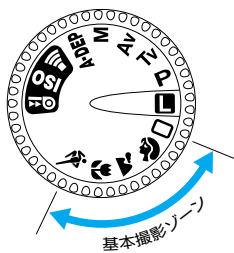
撮影の途中で巻き戻し操作をせずにフィルムを取り出した後、続けて新しいフィルムをセットするとフィルムがパトローネに巻き取られてしまいます。一度背ぶたを閉じて、空撮りしてから新しいフィルムをセットしてください。

カメラの構え方

鮮明な写真を撮るために、カメラを動かないようしっかりと構えて撮影します。



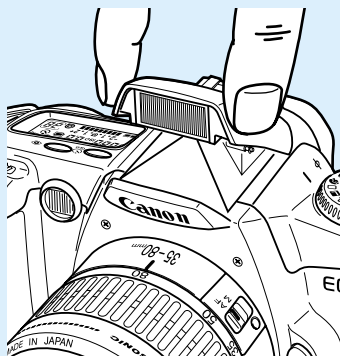
- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足は揃えずに片足を軽く踏みだして体を安定させます。



ここではモードダイアルの基本撮影ゾーンにある〈□〉、〈📷〉、〈📷〉、〈📷〉、〈📷〉を使って簡単に写真を撮る方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影ができるように、すべてが自動設定されています。

また、誤操作による失敗を防ぐため、〈⚙️〉(電子ダイヤル)や各種操作ボタン(〈👁️〉設定、〈👉〉、〈📷〉)による操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

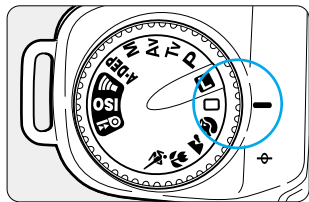
カメラまかせの 全自動撮影



- 基本撮影ゾーンでは、ファインダー内の〈📷〉マークが点滅したらストロボを手動で上げてください。なお、あらかじめストロボを上げておくと、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に発光します。
- 基本撮影ゾーンで自動設定されている機能の内容は38ページの「撮影機能の組み合わせ一覧」をご覧ください。

□ 全自動で撮る

〈□〉での撮影は、シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。ワイドなAFフレームで被写体をとらえるので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。



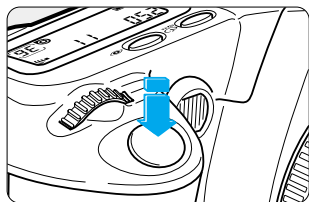
1 モードダイヤルを〈□〉にする



ワイドAFフレーム

2 被写体にAFフレームを合わせる

- ワイドAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、51ページを参照してください。



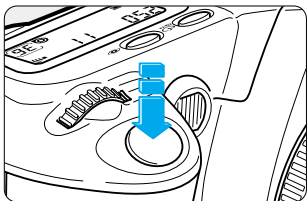
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ピントが合うと「ピピッ」という音が生じ、ファインダー右下に合焦マーク(●)が点灯します。



4 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- ファインダー内にくまが点滅するときはストロボを上げてください。(→58)



5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影します。



合焦マークが点滅するときは、シャッターが切れません。52ページおよび64ページを参照してください。



- あらかじめ内蔵ストロボを上げておくと、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に発光します。
- 内蔵ストロボ使用上の注意などに関しては58ページを参照してください。

AF補助光について

AF補助光は基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも自動的に働きます。

ピントが合いにくい状況では自動的にAF補助光がついて被写体を照らし、ピントを合わせやすくします



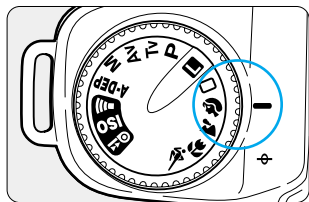
- AF補助光によってピントが合う範囲は、約4mまでです。
- 別売のEOS専用ストロボをつけている場合でも、カメラからAF補助光が投光されます。

ポートレートで撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。



モードダイヤルをくにする

- 撮影の手順は「□（全自動）で撮る」（→28）と同じです。



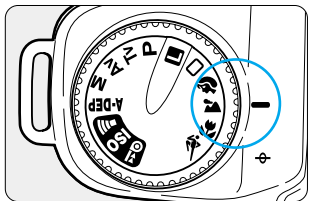
- 被写体の上半身がファインダー一杯になるくらいにすると背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとよいでしょう。
- 望遠系レンズを使用すると背景をさらにぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側（35-80mmのレンズなら80mmです）にすると効果的です。
- あらかじめ内蔵ストロボを上げておくと、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に発光します。
- 内蔵ストロボ使用上の注意などに関しては58ページを参照してください。

風景で撮る



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。



モードダイヤルをく  にする

- 撮影の手順は「 (全自動) で撮る」(→28)と同じです。




シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。



広角系レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側（35-80mmのレンズなら35mmです）にすると効果的です。



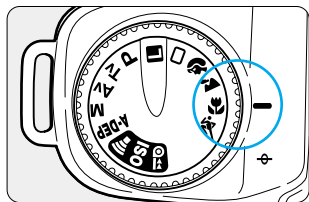
ストロボを上げたままモードダイヤルをく  にしたときは、ストロボを手で押し下げてから撮影してください。ストロボを上げたまま撮影するとイメージどおりの写真が撮れません。

🌸 クローズアップで撮る



草花や昆虫を大きく撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。



モードダイヤルを🌸にする

- 撮影の手順は「□ (全自動) で撮る」(→28) と同じです。



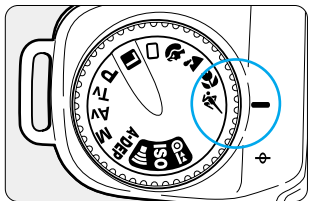
- 使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。
- あらかじめ内蔵ストロボを上げておくと、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に発光します。
- 内蔵ストロボ使用上の注意などに関しては58ページを参照してください。

スポーツで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。



モードダイヤルをく~~ス~~にする

- 撮影の手順は「 (全自動)で撮る」(→28)と同じです。



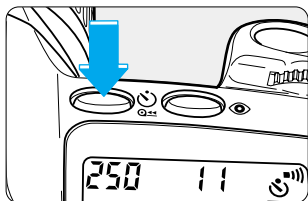
- フィルム感度ISO 400以上のフィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影には200mm～300mm程度の望遠系のレンズをおすすめします。



ストロボを上げたままモードダイヤルをく~~ス~~にしたときは、ストロボを手で押し下げてから撮影してください。ストロボを上げたまま撮影するとイメージどおりの写真が撮れません。

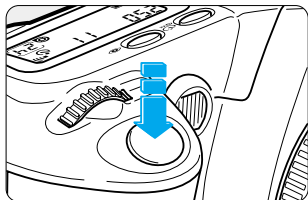
セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーは自分自身を含めた記念撮影などに使用します。基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



1 ボタンを押す

- 表示パネルにが表示されます。
- もう一度ボタンを押すか、モードダイヤルをにすると、セルフタイマーは解除されます。



2 撮影する

- 撮影の手順は「全自動で撮る」(→28)と同じです。
- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- シャッターボタンを全押しすると、電子音が次のように鳴り、10秒後に撮影されます。
はじめの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ
最後の2秒間：早くピピピピ
- セルフタイマー作動中は、表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。
- セルフタイマーを利用してストロボ撮影するときに、赤目緩和機能(→59)がセットされていると、シャッターが切れる2秒前に赤目緩和ランプが点灯します。



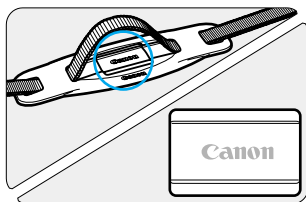
- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、もう一度📷ボタンを押してください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（→51）して撮影します。



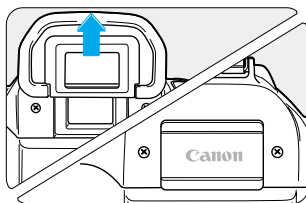
カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。

アイピースカバーを使う

セルフタイマーやリモートスイッチ（別売）を使うときなど、ファインダーから目を離れた状態で撮影すると、ファインダーから入った光で露出が狂うことがあります。それを防ぐため、ファインダー接眼部にアイピースカバーを取り付けてください。



1 ストラップの肩当て部にあるアイピースカバーを外す



2 アイカップを取り外す

3 アイピースカバーを接眼部に取り付ける

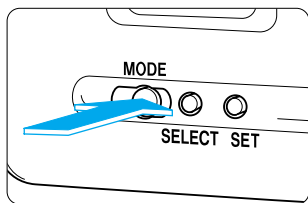
日付／時刻を入れて撮る



日付は上の写真のように画面の右下に写し込まれます。

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれたクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を左に示す写真の位置に写し込むことができます。なお、日付／時刻を写し込まないようにすることもできます。

日付／時刻は基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。



〈MODE〉ボタンを押す

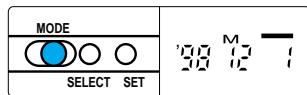
- クォーツデート表示パネルの表示が次のように変わります。

<年月日>表示	'98 M 12 24	(1998年12月24日)
↓		
<日時分>表示	24 16:45	(24日16時45分)
↓		
<ハイフン>表示	- - - - -	(なにも写し込まない)
↓		
<月日年>表示	M 12 24 '98	(12月24日1998年)
↓		
<日月年>表示	24 M 12 '98	(24日12月1998年)

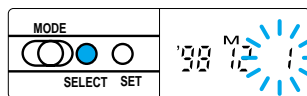
- Mは「月」を表します。
- — は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付／時刻の写し込みを知らせます。

日付／時刻を変更する

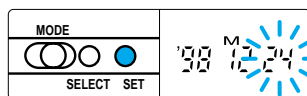
日付や時刻を変更するときは次のようにします。



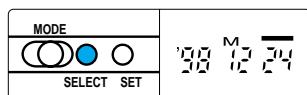
- 1 <MODE> ボタンを押して変更する日付(時刻)を選ぶ



- 2 <SELECT> ボタンを押して修正する数字を点滅させる



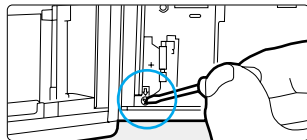
- 3 <SET> ボタンを押して正しい数字をセットする



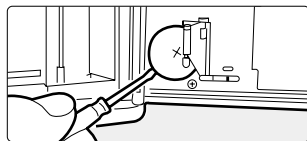
- 4 点滅している数字がなくなるまで<SELECT>ボタンを押す

クォーツデート用電池の交換

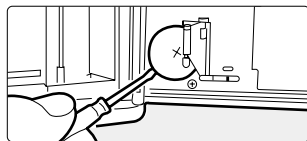
写真に写し込まれた数値や、クォーツデート表示パネルの表示がうすくなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クォーツデート用の電池はリチウム電池CR2025、1個です。



- 1 背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめ電池室のふたを取り外す



- 2 電池を取り出す



- 3 新しい電池の「+」側を上にして入れ、電池室のふたを取り付ける

- 4 日付と時刻をセットしなおす

撮影機能の組み合わせ一覧

モード ダイアル のマーク	オートフォーカス		フィルム巻き上げ		測光方式		
	ワン ショット	AI フォーカス	一枚撮り	連続撮影	評価測光	中央部重点 平均測光	部分測光
		●	●		●		
	●			●	●		
	●		●		●		
	●		●		●		
		●		●	●		
P		●		●	●		●*
Tv		●		●	●		●*
Av		●		●	●		●*
M		●		●		●	●*
A-DEP	●		●		●		●*

*部分測光ボタンが押されているときのみ部分測光になります。

*〈M〉モードを選択すると、中央部重点平均測光になります。

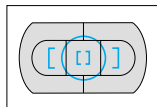
ワンショット：被写体にピントが合うと同時に露出が決まります。ピントが合うまでシャッターは切れません。

AIフォーカス：シャッターボタンを押したときの被写体の動きによってAFの方式を自動的に切り換えます。

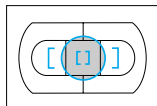
被写体が動いていない場合は、合焦と同時にピントを固定（ワンショット）します。また、動いている場合は、シャッターが切れるときのピント位置を予測しながら連続してピントを合わせつづけます。

連続撮影：シャッターボタンを押している間、1秒間に約1コマの速さで連続して撮影します。

評価測光：逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光などの要素をカメラが総合的に判断して主被写体を適正露出にします。

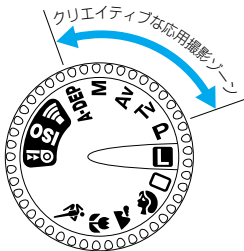


部分測光：ファインダー中央部分●の範囲を測光します。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。



中央部重点平均測光：ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。






応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択して露出を自分の好みに変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影をすることができます。ここでは〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉、〈A-DEP〉それぞれの効果的な使い方や露出の補正方法について説明します。

3

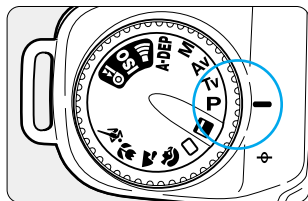
撮影目的に合わせた 自在な応用撮影

- 本文中の〈〉は電子ダイヤルを表しています。
- 応用撮影ゾーンでは内蔵ストロボを上げておくと、常に発光します。

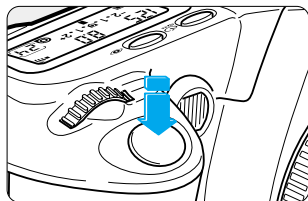
PプログラムAEで撮る



〈P〉と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動セットします。これをプログラムAEといいます。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

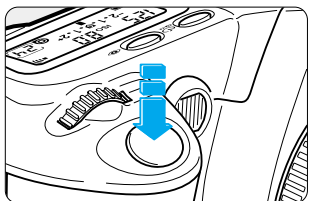
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ピントが合うと「ピピッ」という音がし、ファインダー右下に合焦マーク(●)が点灯します。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点灯していれば、適正露出です。
- 点滅した場合には60ページの「露出表示が点滅したときは」をご覧ください。





4 ● 撮影する

● 構図を決めシャッターボタンを全押しします。


Pと□の違い

〈P〉と〈□〉は、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じですが、次の操作の可否（○：可能、×：不可能）が異なります。

機 能		P	□
連続撮影		○	×
プログラムシフト		○	×
露出補正		○	×
部分測光・AEロック		○	×
内蔵ストロボを上げた ときの発光	自動発光	×	○
	常時発光	○	×

プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のまま自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。

プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が出るまで〈〉を回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

6秒タイマー

シャッターボタンを半押ししたあとで指を離してもタイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内のシャッター速度と絞り数値は約6秒間表示されています。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

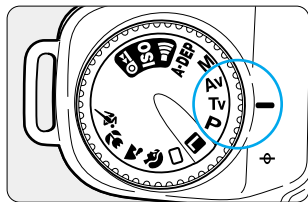
シャッター速度は  で設定します。



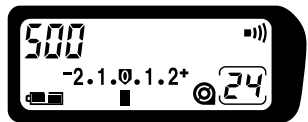
速いシャッター速度で撮影




遅いシャッター速度で撮影



1 モードダイヤルを **Tv** にする



2 シャッター速度を選ぶ

- 表示パネルを見ながら  を回して、希望するシャッター速度を選びます。

3 ピントを合わせる



4 表示を確認する

5 撮影する



- 使用しているレンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅しているときは暗すぎる（露出アンダー）写真になります。点滅が止まるまでくまを回してシャッター速度を遅くしてください。



- 使用しているレンズの一番大きな絞り数値が点滅したときは明るすぎる（露出オーバー）写真になります。点滅が止まるまでくまを回してシャッター速度を速くしてください。



テレビ画面をきれいに写すには、シャッター速度を1/15秒にします。このときは三脚を利用してください。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段毎に設定することができます。2000から2までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また、0.7は0.7秒を表し、15"は15秒を表しています。

2000 1500 1000 750 500 350 250 180 125 90
60 45 30 20 15 10 8 6 4 3 2 0.7 1" 1.5 2" 3"
4" 6" 8" 10" 15" 20" 30"

Av 絞りを決めて撮る

絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広がります。

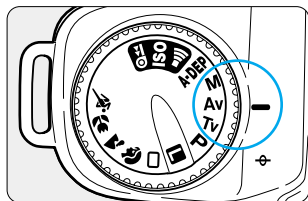
絞り数値は  で設定します。



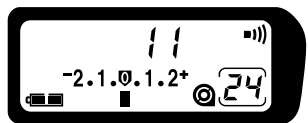
絞り数値を小さくして撮影




絞り数値を大きくして撮影



1 モードダイヤルをくAv>にする



2 絞り数値を選ぶ

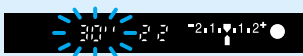
- 表示パネルを見ながら  を回して、希望する絞り数値を選びます。


3 ピントを合わせる




4 表示を確認する

5 撮影する



● シャッター速度の30"が点滅しているときは暗すぎる（露出アンダー）写真になります。点滅が止まるまで  を回して絞り数値を小さくしてください。



● シャッター速度の2000が点滅しているときは明るすぎる（露出オーバー）写真になります。点滅が止まるまで  を回して絞り数値を大きくしてください。



絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ごとに設定することができます。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7 8.0
9.5 11 13 16 19 22 27 32 38 45 54 64

カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

夜景を背景に人を撮る

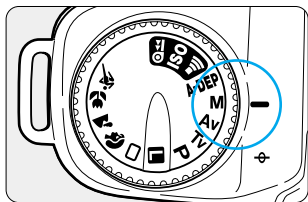
夕暮れや夜景を背景にして人を撮影するとき、モードダイヤルをく **Av** > にして小さい絞り数値でストロボ撮影（→58）すると、人にはストロボ光が当たり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。これをスローシンクロ撮影といいます。

このときは必ず三脚を利用してください。また、ストロボが光ったあとも写される人がすぐに動かないようにしてください。

M 自由に露出を決めて撮る



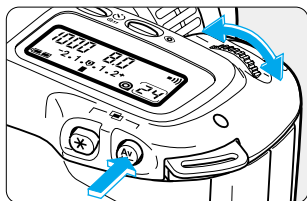
カメラまかせでなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて、表現を工夫した写真を撮ることができます。シャッター速度と絞り数値の適正な組み合わせは、露出レベルマークで確認します。



1 モードダイヤルをくM>にする



2 シャッター速度を選ぶ
●表示パネルを見ながらく $\left[\text{Sun} \right]$ >を回して、希望するシャッター速度を選びます。



3 絞り数値を選ぶ

- <Av> ボタンを押しながら、<露出レベルマーク>を回して希望する絞り数値を選びます。

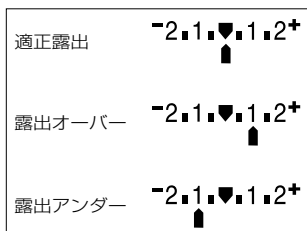


4 ピントを合わせる



5 表示を確認する

6 露出レベルマークに従い<露出レベルマーク>で露出を調整する



適正露出 : 露出を決定するときの基準です。

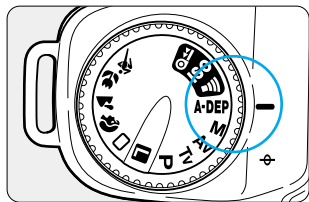
露出オーバー : シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

露出アンダー : シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

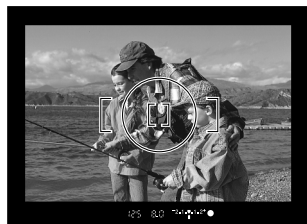
7 撮影する

A-DEP 近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な写真を撮ることができます。ワイドAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。



1 モードダイヤルをく **A-DEP** >にする



2 ピントを合わせる

- ワイドAFフレームを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しします。



3 表示を確認し、撮影する

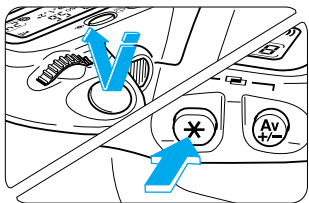
- 2の場合、ワイドAFフレームでとらえた左奥の被写体から、右手前の被写体までが鮮明に写る範囲になります。



- 絞り数値が点滅するとき露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることもあるので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときはく **P** >のストロボ撮影と同じ結果になります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが **MF** (または**M**) になっているとく **A-DEP** >撮影できません。

＊部分測光・AEロックで撮る

スポットライトで照明されたステージのように、被写体と背景とのコントラスト（明暗差）が極端に強いと、構図によっては写真が明るく写りすぎたり暗く写りすぎたりします。そのようなときは部分測光撮影に切り換えるときれいに写すことができます。

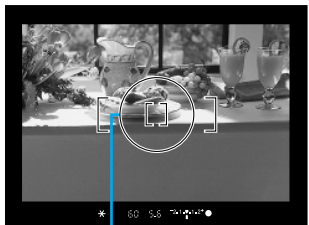


1 シャッターボタンを半押しし、シャッターボタンから一旦指を離す

- ファインダー内に露出が表示されます。

2 露出を合わせたい被写体に部分測光範囲マークを合わせ、〈＊〉ボタンを押す

- ファインダー内に〈＊〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- シャッターボタンから一度指を離さないで、〈＊〉ボタンを押しても、ファインダー内に〈＊〉マークは点灯しません。
- 〈＊〉ボタンは撮影するまで押したままにします。



部分測光範囲マーク

3 〈＊〉ボタンを押しながら、ファインダー中央のセンターAFフレーム〔 〕でピントを合わせる

- 構図を決め撮影を行なうまでは、〈＊〉ボタンは押したまま、シャッターボタンは半押しし続けてください。



センターAFフレーム

4 構図を決め、撮影する

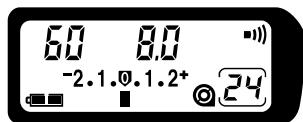


手順2以降の操作は、手順1の操作後6秒以内に行なってください。6秒を過ぎたときは手順1からやり直してください。

露出を補正して撮る

カメラが決めた標準的な露出を、意図的に変えることを露出補正といいます。写真を明るめ（露出オーバー）にする、あるいは暗め（露出アンダー）にするときに利用します。補正量は+2.0段から-2.0段の範囲で1/2段毎に設定することができます。

1 モードダイヤルを<M>以外の応用撮影ゾーンにする

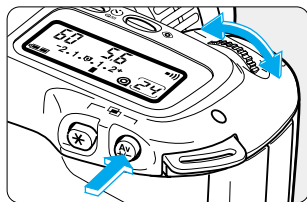


2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして表示を確認します。

3 補正量を選ぶ

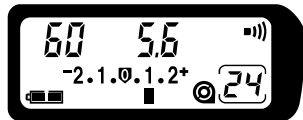
- <Av>ボタンを押しながら<露出補正>を回して、希望する補正量を選びます。+は露出オーバー側へ、-は露出アンダー側への補正です。



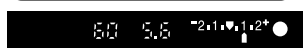
-2.1.0.1.2+

露出アンダー ← ■ → 露出オーバー

- 露出補正を解除するときは補正量を0に合わせます。なお、設定された補正量はモードダイヤルを<M>にしても解除されません。



4 撮影する

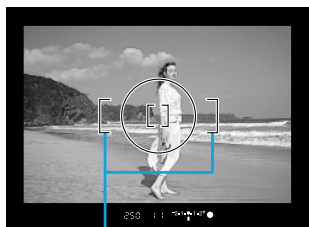


- モードダイヤルを基本撮影ゾーンにすると露出補正は自動解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値5.6が適正露出のとき、露出レベル目盛で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを表示パネル上の数値で以下のように変更することと同じです。

	-1段 ← 0 → +1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	8.0 ← 5.6 → 4.0

AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる

ファインダー内のワイドAFフレーム [] に入らないような画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。



ワイドAFフレーム

1 ワイドAFフレーム [] でピントを合わせる

- ファインダー内に合焦マーク (●) が点灯します。



2 シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決める

3 撮影する



センターAFフレームを選んでピントを合わせる

シャッターボタンを半押しした後で <★> ボタンを押すと、センターAFフレーム優先でピントと露出を決めて撮影することができます。画面内の特定の被写体にピントを合わせる時に利用します (→49)。

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

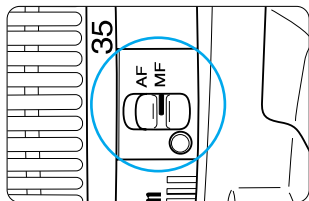
このカメラは精度の高いAFシステムを搭載しており、ほとんどの被写体にピントを合わせることができます。ただし、次のような被写体に対してはピントを合わせることができない(合焦マークが点滅)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

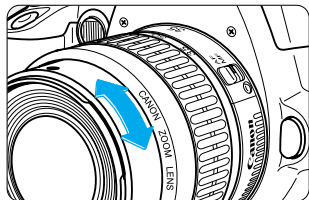
- (a) 明暗の差が極端にない被写体 ……………例: 青空、単色の平面など
- (b) 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体 ……例: 反射光の強い車のボディ
- (c) 遠くと近くに共存する被写体 ……………例: おりの中の動物

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影(→51)するか、次の手順で手動ピント合わせをしてください。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)



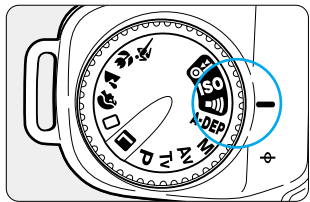
- 1 レンズのフォーカスモードスイッチをMF(またはM)にする



- 2 ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを回す

🔊 ピントが合ったときの電子音を消す

撮影場所によっては、ピントが合ったときの電子音が邪魔になることがあります。応用撮影ゾーンで撮影するとき、この電子音を鳴らないようにすることができます。

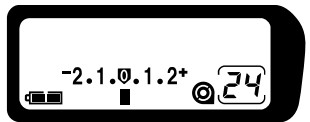


1 モードダイヤルをく🔊にする



2 表示パネルに「0」を表示させる

- く🔊を回して「0」を表示させます。
- 元に戻すときは「1」を表示します。



3 モードダイヤルを戻す

- 表示パネルからく🔊が消えます。

長時間露光(バルブ)撮影

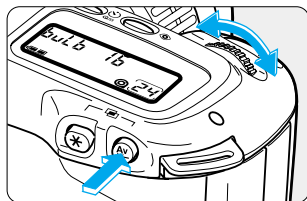
シャッターボタンを押している間シャッターは開いたままになり、シャッターボタンから指を離すとシャッターは閉じます。これをバルブ撮影といいます。リモートスイッチRS-60E3(別売)を併用すればシャッターボタンを押し続ける必要はありません。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを<M>にする



2 シャッター速度を bulb にする

- <☀>を回して bulb を選びます。
- 30"の次が bulb です。



3 絞り数値を選ぶ

- <A>ボタンを押しながら<☀>を回して、希望する絞り数値を選びます。

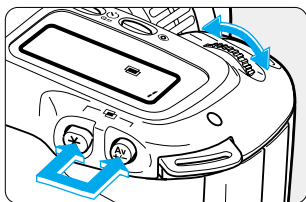


4 構図を決めて撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間シャッターは開いています。
- バルブ撮影中は表示パネルとファインダーに bulb が点滅します。
- 新品の電池を使用した場合、約6時間(常温)のバルブ撮影ができます。
- バルブ撮影と多重露出(→55)を併用することができます。

多重露出撮影

1コマのフィルムで2回以上シャッターを切る多重露出撮影で、特殊な表現の写真を撮ることができます。応用撮影ゾーンで利用できます。



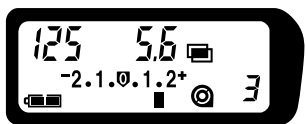
1 <MULTI>を表示させる

- <MULTI>ボタンと<MODE>ボタンを同時に押して、表示パネルに<MULTI>を表示させます。



2 多重露出回数を選ぶ

- <MULTI>ボタンと<MODE>ボタンを押したまま、<DISP>ボタンを回して多重露出回数を選びます。
- 多重露出回数は表示パネルに表示されます。
- 設定できる多重露出回数は9回までです。
- 多重露出を解除するときは多重露出回数を「1」にします。



3 構図を決めて撮影する

- 1回目の撮影をした後は、シャッターボタンを半押しすると表示パネルに<MULTI>が点滅して、多重露出撮影中であることが確認できます。
- 設定した多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、多重露出撮影は解除されません。
- 撮影の途中で多重露出撮影を解除するときは1, 2の手順で多重露出回数の表示を空白にします。



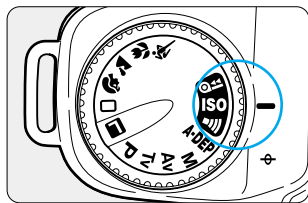
1コマのフィルムに何回も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。「露出を補正して撮る」(→50)もお読みください。補正量の目安を次に示します。

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安〔段〕	-1.0	-1.5	-2.0

- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめテスト撮影を行って撮影データを求めておいてください。

フィルム感度を変更する

DXマークのないフィルムを使用するときや、任意のフィルム感度設定するときは、次の手順で行います。設定できるフィルム感度の範囲はISO 6~6400です。



- 1 モードダイヤルをくISO>にする
 - 表示パネルにくISO>とフィルム感度を示す数字が表示されます。

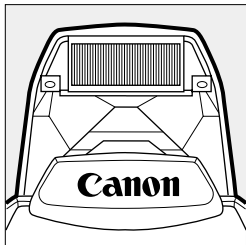


- 2 フィルム感度を選ぶ
 - 表示パネルを見ながらく<露出>を回して、希望するフィルムの感度を選びます。


- 3 モードダイヤルを戻す



フィルム感度を手動で設定してもDXコードがついているフィルムに入れ換えると手動で設定した数値は解除されます。



内蔵ストロボを手動で上げると、いつでも手軽にストロボ撮影を行うことができます。

- 基本撮影ゾーンでは、ファインダー内の〈〉マークが点滅したらストロボを上げてください。なお、あらかじめストロボを上げておくと、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に発光します。
- 応用撮影ゾーンでは、明るさに関係なく、必要なときに内蔵ストロボを上げるだけで、いつでもストロボ撮影ができます。また、通常の撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度（1/90秒以下）の設定を行うことができます。ストロボ光の露出は、常にその時の絞り数値を基準にして自動制御されます。

4 内蔵ストロボを使った撮影


別売のEOS専用外付けストロボについて

EOS専用EXシリーズスピードライトを装着すると、内蔵ストロボと同じ感覚の簡単な操作で、ストロボ撮影ができます。大光量が必要な集合写真や、光を演出したポートレート撮影におすすめします。

なお、EXシリーズストロボの機能は、装着するEOSカメラのタイプ（本機はBタイプカメラです）により異なります。詳細はストロボ使用説明書の「Bタイプカメラとの組み合わせ」を参照してください。


内蔵ストロボ撮影

基本撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

基本撮影ゾーンでは、ファインダー内の〈〉マークが点滅したらストロボを上げてください。日中逆光時や暗い場所で自動的にストロボ撮影となります。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

撮影モードを選択し、ストロボを上げて撮影します。

- P** : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。
シャッター速度と絞り数値はく〈〉(全自動)と同様、自動的に決まります。
- Tv** : 1/90秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動セットされます。
- Av** : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長時間露光で適正露出になります。
●自動スローシンクロ撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、必ず三脚を使用してください。
- M** : シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。
- A-DEP** : く〈**P**〉と同じストロボ撮影結果となります。



- く〈**Tv**〉く〈**M**〉で1/90秒より速いシャッター速度をセットしても、自動的に1/90秒に再設定されます。
- 内蔵ストロボとEOS専用外付けストロボを一緒に使用することはできません。
- EOS専用外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。



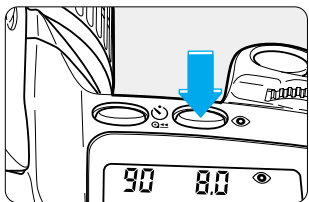
- 1m以内で内蔵ストロボ撮影すると画面の一部が欠け(ケラれ)て暗い写真になります。ストロボ撮影は被写体から1m以上離れてください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。

内蔵ストロボの届く距離 (EF35-80mm F4-5.6を使用した場合)

ISO	35mm		80mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~4.2m	1~3m	1~3m	1~2.1m
400	1~8.4m	1.2~6m	1~6m	1~4.2m

赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプがつき、写る人のひとみを小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は全ての撮影モードでいつでも設定、使用できます。



1 <👁> ボタンを押す

- 表示パネルの <👁> 点灯表示を確認します。
- 赤目緩和機能を解除するときはもう一度 <👁> ボタンを押します。



赤目緩和ランプ
点灯表示

2 ストロボを上げて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、赤目緩和ランプが点灯し、約1秒後に撮影が行われます。
- 赤目緩和ランプ点灯中は撮影できません。



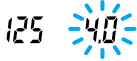



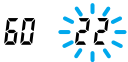
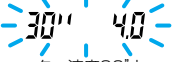



- 赤目緩和機能はEOS専用外付けストロボ (EXシリーズ) 使用時も機能します。
- 赤目緩和効果には個人差があります。



- 写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてから撮影してください。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくともり効果があります。

露出表示が点滅したときは

撮影モード	表示警告例 (点滅)	意味	備考
P	 シャッター速度30 [°] と、 使用レンズの最小絞り数値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度2000と、 使用レンズの最大絞り数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	 使用レンズの最小絞り数値	露出アンダーになります。	電子ダイヤルを回してシャッター速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最大絞り数値	露出オーバーになります。	電子ダイヤルを回してシャッター速度を速くしてください。
Av	 シャッター速度30 [°]	露出アンダーになります。	電子ダイヤルを回して絞り数値を小さくしてください。
	 シャッター速度2000	露出オーバーになります。	電子ダイヤルを回して絞り数値を大きくしてください。
A-DEP	 使用レンズの最大絞り数値	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	 シャッター速度30 [°] と、 使用レンズの最小絞り数値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。撮影結果は<P>によるストロボ撮影と同じになります。
	 シャッター速度2000と、 使用レンズの最大絞り数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り数値
P	1/90秒にシャッター速度が自動設定されます。	TTLプログラムによる調光絞り数値を自動設定します。
Tv	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します (*).	セットしたシャッター速度に対し、明るさに応じて絞り数値を自動設定します。
Av	設定した絞り数値に対し、明るさに応じてシャッター速度を30~1/90秒の間で自動設定します。	任意の絞り数値を手動で設定します。
M	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します (*).	

(*) 1/90秒以上に設定した場合は、自動的に1/90秒に設定されます。

AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ワンショットAF	AI サーボAF
一枚撮り	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光で露出を固定します (撮影前に露出の値を記憶)。	被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。露出はシャッターを切る瞬間に決定されます。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります (1秒間に約1コマ)。	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します (1秒間に約1コマ)。

写真の基本用語解説

露出

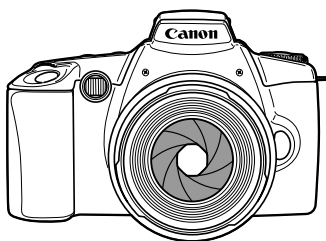
写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出（または露光）といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、2000（1/2000秒）～ 30"（30秒）、buLb（バルブ）となっています。

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0～64となっています。



フィルム感度 (ISO値)

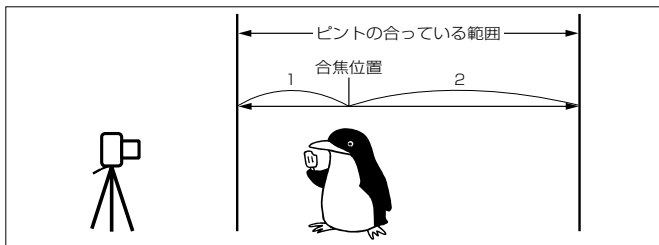
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。数値はISO（International Standardization Organization／国際標準化機構）で定めた数値で表しています。フィルム感度が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6～6400となっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前1に対して奥側が2になる(下図参照)。



絞り数値F2



絞り数値F22

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表でカメラをチェックしてください。

症状	原因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに 表示がない	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	20
	電池が逆向きに入っていますか？	電池を正しい向きに入れなおしてください。	20
2. シャッターが 切れない	フィルムは正しくセットされていますか？ (表示パネルにフィルムカウンターが表示されていますか？)	フィルムを正しく入れなおしてください。	24
	巻き戻されたフィルムがカメラに入っていないか？ (表示パネルのフィルムカウンター表示が空白になっていませんか？)	フィルムを新しいフィルムと交換してください。	24
	ピントは合っていますか？ (ファインダー内の合焦マークが点滅していませんか？)	もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときはレンズのフォーカスモードスイッチを MF (または M) にして、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。	23 52
3. 写真がボケて 写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが MF (または M) になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチを AF にしてください。	22
	シャッターボタンを押すときに手ぶれを起こしていませんか？	手ぶれを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。	23
4. 表示パネルに bc が点灯している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換して、 bc が消え、電池チェック表示が点灯すれば正常に撮影できます。	21
	なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。	シャッターボタンを半押しして、 bc が消え、電池チェック表示が点灯すれば正常に撮影できます。 * 以上の操作を何度しても bc が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	21 裏表紙

主なアクセサリー（別売）



グリップ GR-80TP

カメラのグリップを大型化してホールド性を高めます。また簡易三脚を内蔵しているのでセルフタイマー撮影やローアングル撮影のときに利用することができます。



アイピースエクステンダー EP-EX15

接眼部に取り付けるとEOSのファインダーを15mm延長します。そのときのファインダーの倍率は約0.5倍になります。



視度補正レンズ E

カメラ本体の視度はマイナス1ジオプターですが、視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいて確かめてから選んでください。

- 視度補正レンズに表示されている数値はカメラに装着したときの合成視度を表しています。視度補正レンズ単体の視度数値ではありません。



リモートスイッチ RS-60E3

マクロ撮影や長時間露光（バルブ撮影）のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐリモートスイッチです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。



バッテリーパック BP-8

カメラにセットしてあるリチウム電池CR123A (またはDL123A)の代わりに、世界のどこでも入手が容易な「単3形乾電池」を使用する外部電源パックです。



EXシリーズスピードライト

アクセサリースューに取り付けて使用する、TTL自動調光対応のEOS専用ストロボです。



カメラケース EH8 - L (LL)

カメラにレンズを付けたまま収納できる、専用ケースです。



このカメラにはキヤノンのEOS専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）、高圧タイプのストロボおよびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

主な仕様

■形式

型式	ワインダー・ストロボ・オートデート内蔵 フォーカルプレーンシャッター式35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ
撮影画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キャノンEFレンズ群
レンズマウント	キャノンEFマウント(完全電子制御方式)

■ファインダー

型式	ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率	上下左右とも90%
倍率	0.7倍(50mmレンズ・無限遠)
標準視度	-1ジオプター(アイポイント18.5mm)
フォーカシングスクリーン	固定式、全面ニューレーザーマットスクリーン
ファインダー情報	① 視野内 AFフレーム、部分測光範囲マーク
	② 視野外下部 シャッター速度、絞り数値、露出補正量、AEロック表示、ストロボ充電完了・ストロボ使用動告表示、赤目緩和表示、AF合焦・MF合焦表示
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(ミラー切れ：EF600mm F4L USM装着時までなし)

■露出制御

測光方式	6分割SPC使用・TTL開放測光 ① 評価測光(3つの測距点に対応) ② 部分測光(AEロック時自動設定、測光範囲：ファインダー画面中央の約9.5%) ③ 中央部重点平均測光(マニュアル露出時自動設定)
撮影モード	①プログラムAE(プログラムシフト可能) ②シャッター優先AE ③絞り優先AE ④オートDEP ⑤全自動モード ⑥イメージセレクトプログラムAE(4種：ポートレート・風景・クローズアップ・スポーツ) ⑦ストロボAE：EXシリーズストロボ使用・TTLプログラムストロボAE、内蔵ストロボ使用・TTLプログラムストロボAE、EZシリーズストロボ使用・A-TTLプログラムストロボAE ⑧マニュアル
手振れ警告	基本撮影ゾーンにおいて、自動的にセットされたシャッター速度が、「1/使用レンズの焦点距離」以下となった場合、シャッター速度点滅(2Hz)警告
測光範囲	EV2～20(常温常湿、50mm F1.4・ISO100)
使用フィルム感度	ISO6～6400(DXコード自動対応：ISO25～5000・1/3段ステップ)
露出補正	マニュアル補正：1/2段ステップ±2段
AEロック	① オートAEロック ONE SHOT AF・評価測光時：合焦と同時にAEロック ② (シャッターボタン+)AEロックボタン押し 中央部部分測光・AEロック
多重露出	最大予約回数9回(予約回数撮影終了後、自動的に解除)

資料

■オートフォーカス

AF制御方式	マルチBASISによるTTL-CT-SIR方式
測距点	3点(+)
測距輝度範囲	EV1.5~18(ISO100)
AFフレーム選択	カメラによる自動選択
フォーカスモード	① ワンショットAF：測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能 ② AIフォーカスAF：ワンショットAFで捕らえた被写体が、前後に移動を始めるとその移動量を検知し、AIサーボAFに自動切り換え ③ マニュアルフォーカス：フォーカスモードスイッチがMF時、手動フォーカスリング操作により可能
AF補助光	内蔵ランプ照射方式、必要に応じ自動投光

■シャッター

型式	縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター
シャッター速度	1/2000秒~30秒(1/2段ステップ)、バルブ
ストロボ同調最高速度	X=1/90秒
リリース方式	ソフトタッチ電磁リリース
セルブタイマー	電子制御式、時限10秒

■フィルム給送関係

フィルム装填	自動、プリワンド方式
巻き上げ	自動：①一枚撮り ②連続撮影(秒間最高約1コマ)
巻き戻し	① 自動巻き戻し：フィルム終了と同時に巻き戻し開始 ② 途中巻き戻し：モードダイヤル+巻き戻しボタン押しにより、巻き戻し開始
巻き戻し音	約60dB

■内蔵ストロボ

型式	リトラクタブル式TTL自動調光ストロボ(並列制御) ① ガイドナンバー：12(ISO100・m) ② 充電時間：約2秒 ③ 照射角：焦点距離28mm画角に対応
調光絞り数値	① 全自動・P：TTLプログラムにより調光絞り数値自動セット ② Av・M：任意の絞り数値を手動セット ③ Tv：セットしたシャッター速度に対し、絞り数値を自動セット
同調シャッター速度	① 全自動・P：1/90秒自動セット ② Av：設定絞り数値に対し、30秒~1/90秒自動セット ③ Tv・M：1/90秒以下の任意(1/2段ステップ)のシャッター速度を手動セット
調光方式	フィルム面反射測光によるTTL自動調光(測距点連動3分割調光)
調光連動範囲	ネガカラーフィルム・F1.4レンズ使用にて ISO100：1~12m/ISO400：1~24m
赤目緩和機能	内蔵ランプ照射方式、全撮影モードでON/OFF可能、リリースロック時間約1.25秒

■本体関係

フラッシュ接点	アクセサリシュー部：X・直結接点
外部ストロボシステム対応	A-TTL/TTL自動調光対応
リモートコントロール	リモートスイッチRS-60E3対応、Φ2.5mmミニジャック型リモート端子標準装備
電源	リチウム電池 CR123A（またはDL123A）、2本
撮影本数	24枚撮りフィルム・ストロボ50%使用 常温(20℃)：約25本、低温(-10℃)：約15本
電池チェック	モードダイヤルL位置解除で自動電池チェック、表示パネルに3段階常時表示
大きさ	145(W)×92(H)×61.9(D)mm
質量	360g（ボディのみ）

レンズ		EF35 - 80mm F4 - 5.6 III	EF38 - 76 F4.5 - 5.6	EF80 - 200 F 4.5 - 5.6 II
画角	対角線	63°~30°	60°~32°	30°~12°
	垂直	38°~17°	34°~18°	17°~7°
	水平	54°~25°	50°~27°	25°~10°
レンズ構成枚数		8群8枚	6群6枚	7群10枚
最小絞り		F22~F32	F22~F27	F22~F27
撮影距離範囲		0.4m ~ ∞	0.58m ~ ∞	1.5m ~ ∞
最大撮影倍率 (W/T)		0.11/0.23	0.08/0.15	0.065/0.16
フィルター径と使用可能枚数		52mm 1枚	52mm 1枚	52mm 1枚
最大径 × 長さ		65 x 63.5mm	65 x 63.8mm	69 x 78.5mm
質量		175g	155g	250g
適合フード（別売）		EW-54 II	EW-54	ET-54

*データはすべて当社試験条件によります。

*製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

6秒タイマー	41
AFの苦手な被写体 (手動ピント合わせ)	52
AFフレームから外れた被写体に ピントを合わせる	51
AFモードとフィルム 巻き上げの関係	61
AF補助光	29
AIフォーカス	38
bc が点灯	11
EOS専用外付けストロボ	57

あ

アイピースカバー	35
👁️ 赤目緩和機能を使う	59
アクセサリ	65
イメージゾーン	18
応用撮影ゾーン	18

か

各部の名称	14
カメラの構え方	26
基本撮影ゾーン	18
機能セットゾーン	18
🌸 クローズアップで撮る	32
「故障かな？」と お考えになる前に	64

さ

撮影可能フィルム本数	21
撮影機能の組み合わせ一覧	38
絞り数値	62
Av 絞りを決めて撮る	44
シャッター速度	62
シャッターボタン	23
～半押し	23
～全押し	23

Tv シャッター速度を決めて撮る	42
M 自由に露出を決めて撮る	46
手動でピントを合わせる	52
ストラップ(吊りひも)の 取り付け方	19
ストロボ同調シャッター速度と 絞り数値	61
🌀 スポーツで撮る	33
🕒 セルフタイマーを 利用して撮る	34
📺 全自動で撮る	28

た

📷 多重露出撮影	55
A-DEP 近くから遠くまでピントが 合った写真を撮る	48
中央部重点平均測光	38
長時間露光(バルブ)撮影	54
電子音を消す	53
電池 ～をセットする	20
～容量を確認する	21
クオートデータ用～の交換	37

な

内蔵ストロボの届く距離	59
内蔵ストロボ撮影	58

は

被写界深度	63
日付/時刻 ～を入れて撮る	36
～を変更する	37
評価測光	38
表示パネル	16
🌄 風景で撮る	31
ファインダー内表示	17
フィルム ～を入れる	24

～を取り出す	24
～途中巻き戻し	25
～感度を変更する	56
～感度 (ISO値)	62
部分測光	38
＊部分測光・AEロックで撮る	49
P プログラムAEで撮る	40
プログラムシフト	41
P と □ の違い	41
📷 ポートレートで撮る	30

ま

モードダイヤルについて	18
-------------------	----

や

夜景を背景に人を撮る	45
------------------	----

ら

レンズ	22
～の取り外し方	22
～の取り付け方	22
～の仕様	69
連続撮影	38
露出	62
露出表示が点滅したときは	60
露出を補正して撮る	50

わ

ワンショット	38
--------------	----